



米穀機構 情報部

No. 4

2007年8月発行

(社)米穀安定供給確保支援機構(米穀機構)情報部
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-3-6
TEL.03-3222-9583 FAX.03-3264-1771

米穀機構情報部では、お米に関する様々な情報をホームページ「米ネット」及び紙媒体により提供をしています。

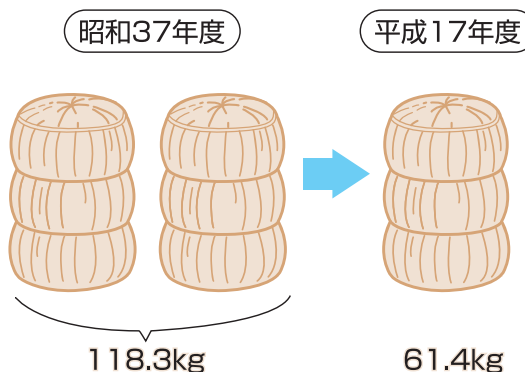
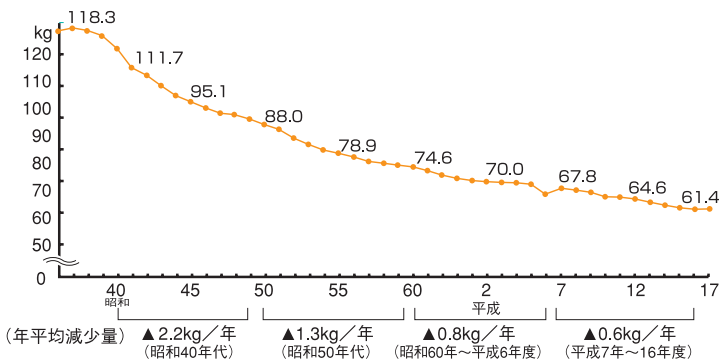
その一環として「米穀機構・情報部かわ版」NO.4を発行いたします。今回は、7月に公表された「基本指針」の内容の一部を簡略版として提供いたします。

I 米の消費に関する動向

1. 米の消費量

米の1人当たり消費量は、昭和37年度の118.3kgをピークに一貫して減少傾向にあり、平成17年度には、その半分近くの61.4kgまで減少しています(図表1)。

図表1 米の消費量の推移(1人1年当たり供給量)

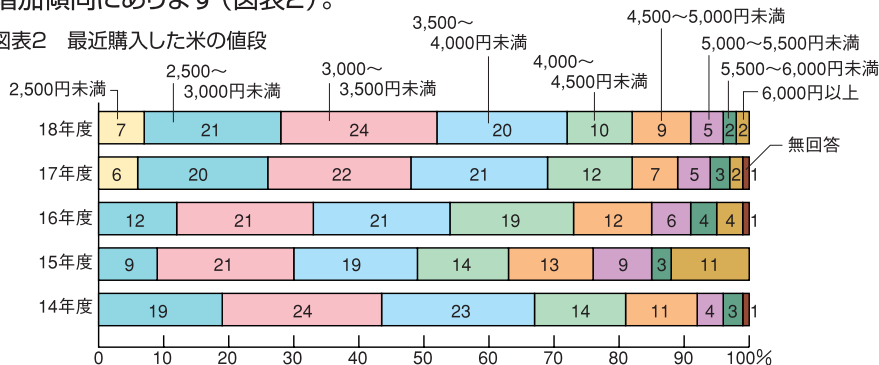


資料:農林水産省「食料需給表」

2. 米の購入動向

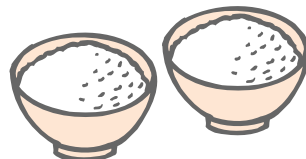
農林水産省が平成19年3月に実施した「平成18年度食料品消費モニター第4回定期調査結果」によれば、米の購入価格に関する消費者の選択の割合は、10kg当たり3,500円未満の回答者は50%を上回り、更に3,500~4,000円未満の価格帯で米を購入している消費者を加えると、その割合は約70%と前年度調査より増加傾向にあります(図表2)。

図表2 最近購入した米の値段



資料:農林水産省「食料品消費モニター調査」

10kg 3,500円のお米
↓
1合(150g) 52.5円です。
(茶碗2杯分)



Ⅱ 米の生産に関する動向

1. 水稲うるち米の作付状況

平成19年産水稲うるち米の都道府県別作付状況を見ると、ほとんどの都道府県で、上位3品種で8割以上の作付けが行われ、依然としてコシヒカリ、ヒノヒカリ、ひとめぼれ、あきたこまちといった知名度の高い特定の品種に作付けが集中しています(図表3)。

その一方で、これまでの米政策改革に基づく売れる米づくりに向けた各地域での取組等を踏まえて、新たな品種への作付転換が見られます。

図表3 平成19年産水稲うるち米の都道府県別の作付状況

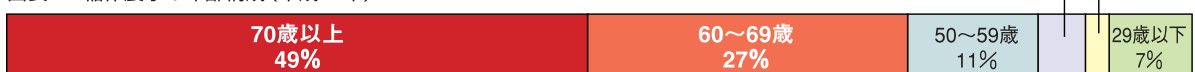
都道府県	1 位		2 位		3 位		19年産 上位3品種計
	品 種	作付比率	品 種	作付比率	品 種	作付比率	
北海道	きらら397	40.2	ななつぼし	27.1	ほしのゆめ	25.8	93.1
青森	つがるロマン	53.0	まっしぐら	40.5	むつほまれ	3.7	97.1
岩手	ひとめぼれ	67.1	あきたこまち	20.7	いわてっこ	6.1	94.0
宮城	ひとめぼれ	82.1	ササニシキ	10.7	まなむすめ	4.1	96.8
秋田	あきたこまち	86.7	ひとめぼれ	8.7	めんこいな	2.9	98.3
山形	はえぬぎ	66.4	ひとめぼれ	11.2	コシヒカリ	9.9	87.4
福島	コシヒカリ	63.4	ひとめぼれ	26.9	あきたこまち	4.0	94.4
茨城	コシヒカリ	80.9	あきたこまち	9.7	ゆめひたち	3.3	93.9
栃木	コシヒカリ	84.0	あさひの夢	10.5	なすひかり	3.0	97.5
群馬	ゴロヒカリ	31.9	あさひの夢	27.9	コシヒカリ	20.6	80.3
埼玉	コシヒカリ	38.1	彩のかがやき	23.7	キヌヒカリ	23.5	85.4
千葉	コシヒカリ	69.6	ふさおとめ	15.7	ちば28号	8.1	93.4
東京都	キヌヒカリ	40.0	コシヒカリ	26.2	アキニシキ	19.2	85.4
神奈川県	キヌヒカリ	71.1	さとしまん	13.8	祭り晴	4.7	89.6
新潟	コシヒカリ	83.0	こしいぶき	9.5	五百万石	2.2	94.8
富山	コシヒカリ	84.4	てんたかく	11.3	五百万石	2.5	98.2
石川	コシヒカリ	77.6	ゆめみづぼ	11.1	能登ひかり	3.2	91.9
福井	コシヒカリ	68.9	ハナエチゼン	21.3	イクヒカリ	4.1	94.3
山梨	コシヒカリ	69.3	あさひの夢	9.0	ひとめぼれ	8.2	86.5
長野	コシヒカリ	73.6	あきたこまち	16.4	ひとめぼれ	2.3	92.3
岐阜	ハツシモ	37.8	コシヒカリ	32.2	ひとめぼれ	8.9	78.9
静岡県	コシヒカリ	40.3	あいちのかおり	19.3	キヌヒカリ	16.8	76.4
愛知県	あいちのかおり	39.8	コシヒカリ	31.4	あさひの夢	10.1	81.2
三重	コシヒカリ	80.6	キヌヒカリ	10.4	みえのえみ	1.9	92.9
滋賀	コシヒカリ	40.7	キヌヒカリ	23.5	日本晴	15.0	79.2
京都	コシヒカリ	53.5	キヌヒカリ	22.2	ヒノヒカリ	13.7	89.4
大阪	ヒノヒカリ	59.3	キヌヒカリ	16.3	祭り晴	14.4	90.1
兵庫	コシヒカリ	38.6	キヌヒカリ	32.1	ヒノヒカリ	14.9	85.6
奈良	ヒノヒカリ	70.2	ひとめぼれ	9.2	コシヒカリ	6.9	86.2
和歌山	キヌヒカリ	47.2	コシヒカリ	10.7	ヒノヒカリ	8.5	66.4
鳥取	コシヒカリ	61.5	ひとめぼれ	31.0	日本晴	2.8	95.3
島根	コシヒカリ	79.9	きぬむすめ	10.6	ハナエチゼン	7.1	97.6
岡山	ヒノヒカリ	25.9	コシヒカリ	17.4	アケボノ	17.3	60.6
広島	コシヒカリ	40.1	ヒノヒカリ	26.0	あきろまん	7.8	73.9
山口	コシヒカリ	35.0	ヒノヒカリ	29.3	ひとめぼれ	23.9	88.2
徳島	コシヒカリ	54.2	キヌヒカリ	27.9	ヒノヒカリ	7.6	89.7
香川	ヒノヒカリ	45.1	コシヒカリ	38.5	はえぬぎ	7.1	90.7
愛媛	ヒノヒカリ	31.9	あきたこまち	29.6	コシヒカリ	28.9	90.4
高知	コシヒカリ	56.3	ヒノヒカリ	25.1	黄金錦	5.5	87.0
福岡	ヒノヒカリ	49.6	夢つくし	38.7	つくしろまん	4.0	92.3
佐賀	ヒノヒカリ	53.9	夢しずく	23.5	コシヒカリ	9.5	87.0
長崎	ヒノヒカリ	72.8	コシヒカリ	16.4	あさひの夢	3.2	92.5
熊本	ヒノヒカリ	54.5	コシヒカリ	14.5	森のくまさん	14.3	83.3
大分	ヒノヒカリ	79.0	ひとめぼれ	11.0	コシヒカリ	4.8	94.8
宮崎	ヒノヒカリ	51.6	コシヒカリ	45.1	まいひかり	1.7	98.4
鹿児島	ヒノヒカリ	66.6	コシヒカリ	23.9	はなさつま	5.7	96.3

資料:農林水産省「米穀の流通・消費等動態調査」

2. 稲作農家の高齢化

農産物販売金額のうち米の販売金額が8割以上(稲作単一経営)の稲作農家の農業従事者の年齢構成をみると、約5割を70歳以上が占めており、高齢化が著しく進んでいます(図表4)。

図表4 稲作農家の年齢構成(平成17年)



資料:農林水産省「農林業センサス」

Ⅲ 米の需給に関する動向

1. 米の出荷・販売の動向

(1) 米の出荷の動向

平成18年産米の生産者から単位農協等へのうるち米の出荷（販売委託・売渡）数量は514万トン（5月末現在）となっており、前年（5月末現在で535万トン）を下回る水準となっています。

他方、生産者から単位農協等以外への売渡数量（直接販売）については、129万トン（5月末現在）となっており、17年産米（5月末現在で128万トン）と同水準で推移しています（図表5）。

図表5 米の出荷（販売委託・売渡）の動向

（単位：万トン）

	平成 12年産	13	14	15	16	17		18
						(5月末現在)	(5月末現在)	
(生産者→単位農協等)								
生産者→単位農協等								
単位農協等→全国出荷団体販売委託	499	502	507	407	512	535	(535)	(514)
単位農協等の独自販売数量	466	434	423	318	382	383	(383)	(352)
過剰米区分出荷見込数量	24	28	30	42	70	71	—	(81)
	~33	~68	~84	~89	~130	~145	—	~162)
過剰米区分出荷見込数量	—	—	—	—	0	7	(7)	(0)
(生産者→単位農協等以外)								
直販数量	162	154	154	150	136	131	(128)	(129)
無償譲渡数量	62	61	62	55	55	55	(53)	(53)
(農家消費等)	89	84	82	78	75	71	(65)	(62)

資料：全国出荷団体調べ、農林水産省「生産者の米穀現在高等調査」等を基に作成

(2) 米の販売の動向

平成18年産の民間流通米（主食用うるち米）のうち、全国出荷団体（全農・全集連）に販売委託された米（以下「全国出荷団体販売米」という。）の6月の販売実績は28.0万トンで、19年6月までの累計は215.2万トンとなり、17年産全国出荷団体販売米の18年6月までの累計240.4万トンを下回る水準となっています（図表6）。

図表6 全国出荷団体（全農・全集連）販売米の販売状況

（単位：千トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計
16年産	11	44	107	213	203	220	185	222	363	326	269	524	2,687
17年産	9	45	108	184	197	237	219	222	303	265	298	317	2,404
対前年差	▲2	1	1	▲29	▲6	17	34	0	▲60	▲61	29	▲207	▲283
18年産	6	38	84	190	187	231	168	194	270	254	250	280	2,152
対前年差	▲3	▲7	▲24	6	▲10	▲6	▲51	▲28	▲33	▲11	▲48	▲37	▲252

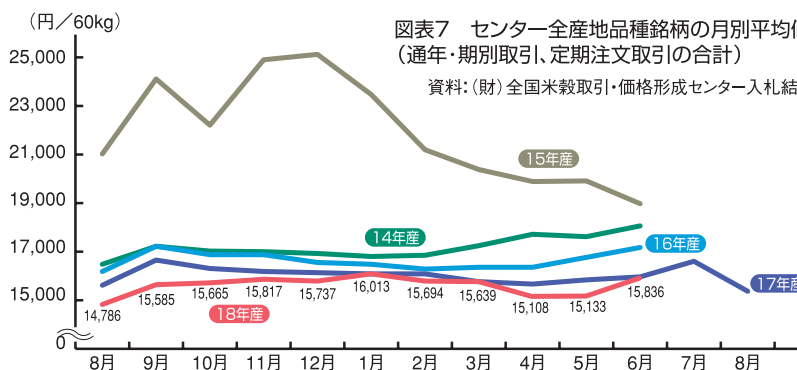
資料：全国出荷団体調べ

2. 価格の動向

コメ価格センターの入札価格の動向

コメ価格センターにおける平成18年産米取引については、売り手・買い手それぞれのニーズに応じた新たな取引手法の導入等の観点から、見直しを行った取引ルールの下で実施しています。

取引動向としては、6月末現在で68銘柄（前年75銘柄）、36万トン（前年同期87万トン）が上場され、61銘柄（前年75銘柄）、9万トン（前年同期43万トン）が落札、落札率25.5%（前年49.9%）となっており、銘柄平均価格については、前年産を下回る水準で推移しています（図表7）。



Ⅳ 平成19/20年の需給見通し

平成19/20年の主食用等の需給見通しは、図表8のとおりであり、19年産米の作柄が概ね明らかとなる本年11月の基本指針において、必要な見直しを行います。

図表8 平成19/20年の主食用等の需要見通し (単位:万トン)

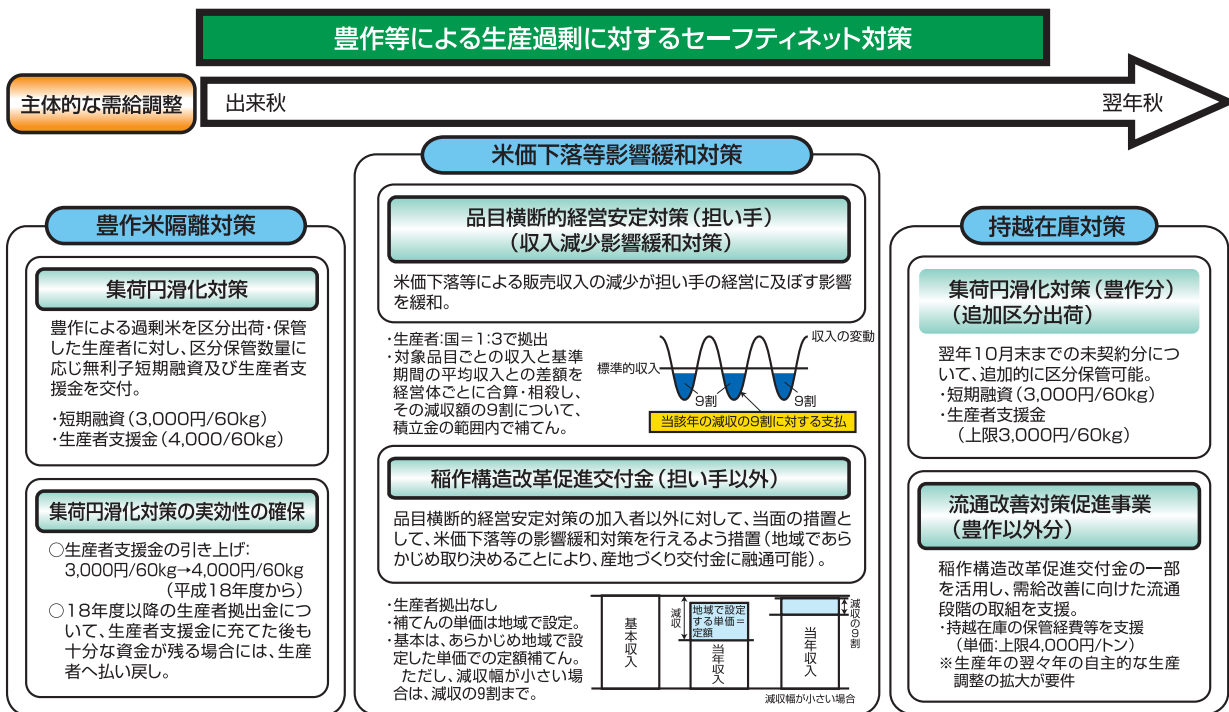
	全体需給	うち政府米
平成19年6月末在庫量 A	261	77
平成19年産米生産量 B	828	40
供給量計 C=A+B	1,089	117
需要量 D	833	40
平成20年6月末在庫量 E=C-D	256	77



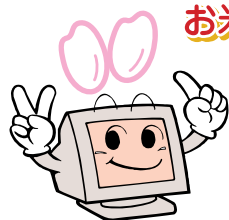
Ⅴ 豊作等による生産過剰に対するセーフティネット対策

豊作等による生産過剰に対するセーフティネット対策としては、「豊作米隔離対策」(集荷円滑化対策)、「米価下落等影響緩和対策」(品目横断的経営安定対策及び稲作構造改革促進交付金)、「持越在庫対策」(集荷円滑化対策及び稲作構造改革促進交付金のうち流通改善対策促進事業)が19年度から実施されています(図表9)。

図表9 豊作等による生産過剰に対するセーフティネット対策



経営所得安定対策等実施要綱で決定(平成18年7月21日)



お米・ごはん情報満載のホームページ **米ネット**

米穀機構のホームページ「米ネット」では、お米の価格・消費・生産などの統計データをはじめ、生産者の皆様向けのお米に関する情報やすぐに役立つごはん料理レシピなど最新の情報を常時提供しています。

また、生産者の皆様からの「米ネット」に関するご提案・ご要望をお待ちしております。

「生産者のコーナー」の中の「意見を投稿する」の投稿フォームからEメールをご利用ください。皆様のアクセスをお待ちしています。